
思い

story

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

思い

【Nコード】

N6155F

【作者名】

story

【あらすじ】

短編です。読んでください。(、)

通勤ラッシュも峠を越え、緩やかな時間が流れる駅のベンチで、発着を知らせる電光掲示板と、平行に並んだ時計を何度も交互に見ていた。

「そろそろだ。」

改札口を少し戸惑いながら抜けた彼女に、男は笑顔で近づいた。

「よくきたね。おつかれさま。」

少し眠そうな彼女は、すぐにとびきりの笑顔をくれた。

男は彼女の体の半分はある重そうなバックをひょいと掴み、並んで歩いた。

「久しぶりだね。会いたかった。」

男は、すぐにでも抱き締めたくなった衝動を抑え、彼女の小さな手をにぎった。

水仕事のせいで、切り傷等の手荒れがしている。

「俺もだよ。ありがとう。」

天気予報は雨だったが、2人を出迎えたのは11月も半ばになった風の冷たい晴天だった。

前日下見をしていた店に着き、ランチを頼んだ。

「オムライス好きなんだよね？ここおいしいみたいだよ。」

にっこり笑った彼女を見ると、恥ずかしくなって壁に掛けてあるアンティークの絵画に視線をずらした。

目線を戻すと、オムライスと鳥のソテーがテーブルを賑やかにしていた。

「とろとろだあ。いただきます。」

一つ年下の彼女と会うのは一ヶ月ぶり。

遠距離恋愛も問題ではなかった。

男は彼女を、心から愛している。

明日には帰ってしまうが、この大切な時間を一秒でも長く2人で。

「早く一緒にすみたいね。もう少し我慢だよ。」

2人の時間を許される限りに過ごした。

笑って過ごした時間。

真剣に話あった時間。

愛しあった時間。

そのすべてが2人の仲を、より一層強固なものにしていく。

「大好きだよ。」

「俺もだよ。」

現実で生きる人々が、駅の改札口から一人、また一人と消えてゆく。

寝台特急が、まもなく駅に到着する。

男も現実に戻り、繋いだ手をそっと離れた。

「気を付けて帰るんだよ。着いたら連絡してね。」

これから半日近く電車で揺られる彼女を想像すると、胸が痛くなったが、彼女の無事を切に願った。

「じゃ行くね。また会おうね。」

切なさど不安が混合した彼女の笑顔。

男はハツとしたが、改札を飛び出した彼女は後ろを振り替えることなく、足早に消えていった。

男は、ふと笑みを浮かべた。

全く知らない土地。切符も乗り継ぎも自分でやると言った彼女。たった1人で長時間電車で揺られ会いに来てくれた。

これから帰る道のり、たった1人の孤独、地元的情景、そして家族の顔を思い出したに違いない。

重い荷物に少し体を傾けさせられた彼女の後ろ姿に、男は何度も、何度も胸が熱くなった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6155f/>

思い

2011年1月15日20時30分発行